HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	経営試験データ処理システム化の現況について（II）
Author(s)	間宮，春大；福井，富三；小宮，圭示 他
Citation	北海道大学演習林試験年報，5，28-32
Issue Date	1988-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/72783
Type	departmental bulletin paper
File Information	1986_2-1.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

A 個別報告

II－1 経営試験データ処理システム化の現況について（II）

天塩地方演習林 間宮春大
中川地方演習林 福井富三
雨竜地方演習林 小宮圭示
経営研究部門 笹木重和

昭和60年年報報告会において、システム開発委員会の論議をもとに、経営試験データ処理のシステム化の途中経過について報告した。

今回は、その続報としてほぼ完成したシステムの概要と現システム開発の諸般の反省点を主に報告する。なお、このシステムは、総称『森林情報処理システム』とし、さまざまな森林情報を処理することを目的としている。（別掲）

1. 設　　備

当初の設備では処理速度が極めて遅く、かつ格納能力に限度があるなどの問題を解決するため、昨年より予定されていたハードディスクを導入・附加した。以下にそのシステムを示す。

①	if 800 model 60	（本体）
②	ディスプレイ	（画面）
③	キーボード	（入力装置）
④	フロッピーディスク	（補助記憶装置）
⑤	ハードディスク	（　〃　）
⑥	プリンター	（出力装置）
⑦	MS—DOS	（オペレーティングシステム）
⑧	QPRO 4	（プログラミング言語）

2. 入　　力

入力装置より与えるデータは以下のとおり（下記○印の入力画面を参考として示す）

○1 職員登録
2 共通管理項目設定
3 事業名登録
4 項・目・細目名登録
5 事業・項・目・細目組み合わせ設定
6 各種名称登録
○7 作業データ
○8 物件データ
9 給与管理項目設定
○10 職員属性設定
11 変更単価、属性設定
12 勤怠データ
13 控除額データ
14 手当データ
15 年調データ
16 差額データ

<<< 職員 登録，変更 >>>

【指 示】[ ] (E 終了 A 登録 変更 D 削除 P 一覧)

```
職員コード    [     ]
氏名          [                    ]
ﾌﾘｶﾞﾅ         [                    ]
性別          [ ]   ( 1.男   2.女 )
生年月日      19[      ]
郵便番号      [       ]
住所 上段     [                                   ]
     下段     [                                   ]
採用日        19[      ]
雇用形態      [ ]   ( 1 長期雇用        2.短期雇用        3 臨時雇用    )
                    ( 4 その他                                          )
職種          [ ]   ( 1.林業技能補佐員  2.事務補佐員      3 臨時用務員  )
                    ( 4.事務補助員      5 用務補助員      6 臨時用人    )
年次休暇数    [ ]
消化休暇数    [ ]
退職日        19[      ]

給与計算区分  [ ]   ( 0 ｽﾙ  1. ｼﾅｲ )
```

<<< 職員属性設定 >>>

```
職員コード  [     ]
---------- 基本給．手当給 ----------
基本給区分 [ ]  (1 日給  2.時給)
基本給 (日 時給) [      ]  住居手当 [      ]  通勤手当 [      ]  他手当 [      ]
基本給 2 [      ]  超勤単価 1 2 5 [      ]  1 5 0 [      ]

---------- 社会保険項目 ----------
健保Ｎｏ [      ]  厚生Ｎｏ [      ]  雇用Ｎｏ [      ]
等 級 [ ]  標準報酬 [ ]千円  健保料 [      ]円  厚生料 [      ]円
雇用保険 [ ]  ( 1 A  2 B  3 無 )

---------- 所得税項目 ----------
税表区分 [ ] ( 1 甲表  2 乙表  3 無 )  配偶者区分 [ ]  扶養人数 [##]人

同居老人 [ ]  別居老人 [ ]  一般障害 [ ]人  特別障害 [ ]人  同居特障 [ ]人
老年者   [ ]  寡婦／夫 [ ]  勤労学生 [ ]  本人障害 [ ]  本人特障 [ ]
夫あり   [ ]  未成年者 [ ]  死亡退職 [ ]  災害者   [ ]  外国人   [ ]

---------- 住民税 ----------
6 月分 [      ] 円  7 月以降 [      ] 円

f1:入力モード  f2:前の表示  f3:次の表示  f4:最終表示  f5:
f6:            f7:           f8:           f9:一覧表     f0:メニュー
```

3. 出　　力

出力帳表については昨年報告しているのでここでは省略する。

4. システム開発について

システム開発委員会が昭和60年６月21日に発足してから２年半が経過しようとしているが、その間の問題点、反省点をあげる。

1) 施行手続について

当初、電算処理化するにあたって施行手続に改訂の必要が生じた場合は改訂できる、という方

```
                    <<<  作業データ入力  >>>
日　付      19[        ]
曜　日        [ ]      【 1 月  2 火  3 水  4 木  5 金  6 土  7 日 】
職員コード   [     ]
事業コード   [  ]
項　コード   [  ]
目　コード   [  ]
細目コード   [  ]
林班         [          ]
台帳番号     [          ]                 超勤表示  [ ]  ( 0 消去  1 表示 )
-----------------------------------------------------------------------------
   員数          [   ] 人  [ ] 時間
   出張区分      [ ]    ( 1. A   2  B   3. C )     出張箇所 [   ]
   超勤時間   1 [      ] 時から [      ] 迄
              2 [      ]        [      ]
              3 [      ]        [      ]
   欠勤時間      [  ] 時間   [  ] 分
   欠勤事由      [ ]    ( 1. 家事   2  病気   3  他 )

-----------------------------------------------------------------------------
f1 : 検索    f2 : 前表示    f3 : 次表示    f4 : 最終
f5 : 登録    f6 : 訂正      f7 : 削除      f8 :          f9 : 一覧      f10 : 終了
-----------------------------------------------------------------------------
```

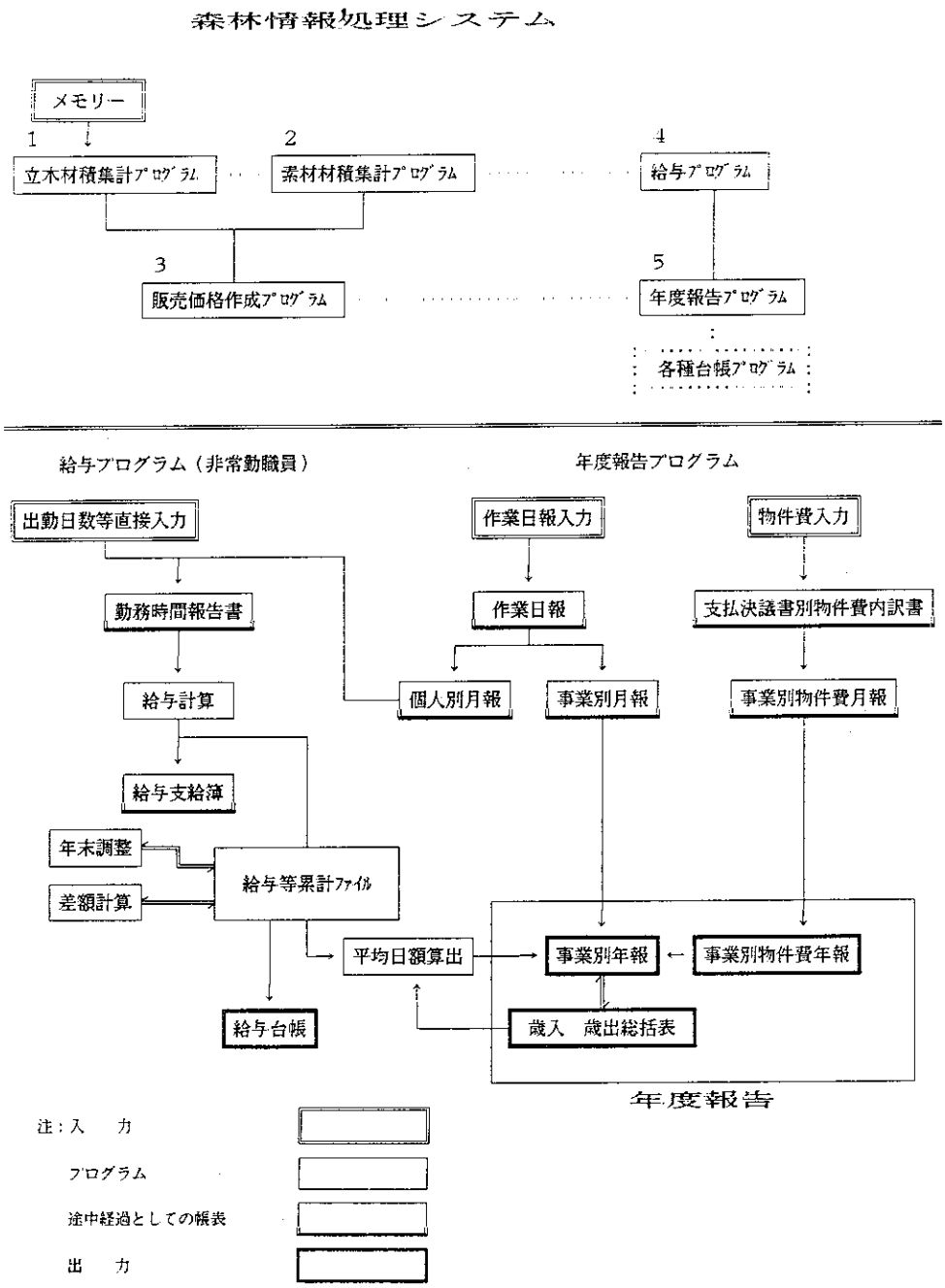
```
                    <<<  物件費  入力  >>>

決議書No : [    ]     行  :  [  ]
-----------------------------------------------------------------------------

支払日   : 19[  /  /  ]
事　業   :   [  ]
  項     :   [  ]
  目     :   [  ]
細　目   :   [  ]
林　班   :   [          ]
台　帳   :   [          ]
品 ｺｰﾄﾞ  :   [    ]
規　格   :   [            ]
単　価   :   [          ]
数　量   :   [            ]
金　額   :   [          ]

-----------------------------------------------------------------------------
 f1 : 検索    f2 : 前データ    f3 : 次データ    f4 : 最終データ    f9  : 決議No
 f5 : 登録    f6 : 訂正        f7 : 削除                           f10 : 終了
-----------------------------------------------------------------------------
```

向でスタートしたが、これがプログラム作成段階でかえって混乱を招いた。それは施行手続の内容についてまで検討しなければならなくなってしまったからである。プログラム作成は、施行手続を具体的に実行するための手段であって、施行手続の内容の検討とは異質のことである。特に項・目・細目一覧表のコード化は、施行手続整備のための労力が大きく、システム化の作業が遅れた。

2)　年度報告について

これも、上記と同じように年度報告の在り方、例えばどんなデータをどのように記録すべきか、という問題がプログラム作成段階で議論されたが、この問題もシステム設計段階前に充分検討されていなければならないものである。

3)　システム設計について



業務全てを電算機処理しなければならない、と考えるのは早計である。またコンピュータが万能で何でもできるという認識はやめて、一つの大変便利な道具であるという認識をもって使いこなす努力が必要である。そのためには、適用業務を分析してシステム設計をしなければならない。システム設計とは、システム企画と分析の結果に基づいてシステムを設計することである。した

がって、この段階の作業がいわば土台となるのである。この土台がしっかりしていなければいいものはできない。例えば、システム設計の完成度と、オペレータの操作性は比例する。つまり設計が未熟であれば、オペレータは使いにくいものになるということである。

システム設計には設備、労力、時間などを必要とする。今回は、設備が導入されていたものについてのプログラム開発だったので、かなりの制約を受けた。今後は、システム設計を先に決め、それにふさわしい機種を選定すべきである。

さらに、当初設計の仕様変更が余儀なくされた。その主なものは、給与計算方法の変更である。これは避けられない事であったが、経費、労力、時間がかなりかかっている。設計・仕様の変更はできるかぎり避けなければならないが、そのためには関係者のシステムに対する理解が必要である。演習林では業務のみでなく、研究者も事務関係の人も使用するしないに関係なく、大要を知っていなければならない。

おわりに

原則的には、入力されたデータについては出力されると考えてよい。したがって、データが欲しいと思ったら取り出すプログラムを作ればよいのである。今のところ、誰もがそのプログラムを作るというわけにはいかないが、近い将来それが可能になるだろう。また、このシステムが生き生きとしたものになるためには、多くの人があらゆることに利用することである。